

***** 発行人 *****
 特定非営利活動法人
 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
 代表理事 大川 昭雄

大川昭雄代表理事が平成二八年三月三日逝去されました
 ここに弔辞を掲載し謹んでご冥福をお祈り申し上げます



「頑張っているね」と言いながら、笑顔で理事会の会場へ入って来られるものと信じていましたので、突然の訃報に声も出ませんでした。

弔辞

故大川代表は「介護の社会化を目指しNPO法人「介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会」を立ち上げました。一九九七年には全国に先駆け先駆的な行事として「待たなしの介護の社会化を求める仙台シンポジウム」を開催したり、二〇〇二年から二〇〇三年にかけて、一万人市民委員会独自で、県内の「特別養護老人ホーム」全部を訪問し「介護サービス」の質の評価をして、冊子に纏め全国に発信するなど先頭に立って汗を流されました。又、NPO法人の理念であり目標でもあります。介護の社会化として、
 一つ 人間の尊厳
 一つ 人間性の回復
 一つ 自立支援
 を目指して、故大川代表の口癖であ

りました「頑張らないけど、あきらめない」の真の気持ちを引き継ぎ、介護保険の外部評価や情報公表をして、二〇一五年体制とも言われる「地域包括ケアシステム」の構築を目指して、更に前に進みたいと決意を新たにされた事をご霊前にご報告をしました。
 ここに一万人市民委員会宮城の一同の決意を述べお別れの言葉と致します。
 どうぞ安らかに眠り下さい。
 二〇一六年三月六日
 副代表理事 杉原正晃

感謝を込めて

大川さん 私がこのように所に立ってお別れの言葉を述べさせて頂くなんて、おやおやと思っておいででしょうね。もしかしたら、向こうの世界に立っておいでになる事におやおやこんなつもりじゃなかったと思っておいでしよう。

例えば、あの堀田力さん達が、介護保険に市民の声を」と立ち上げられた「介護の社会化を進める一万人市民委員会」に賛同した市民のトップに立って、大川さんが中心になって「一万人市民委員会宮城県民の会」を作り引っ張って来て下さいました。介護保険がスタートする三年前でした。

介護地獄をなくし、介護する人もされる人も安心して老いる事ができる介護保険制度を自分たちの手で作るんだと、大川さんの下に皆が燃えましたね。「ゆう・あん・あい」が借りておられる藤崎の真ん前のビルに夜集まっては時間の過ぎるのも

忘れて知恵を集め、時には激論になりましたね。大らかで懐の温かい大川さんがおいでにならなければ、バラバラになつてしまふかも知れないと思う時もありました。皆の真剣さを受けとめて、うまく前進へとエネルギーを向けて下さるのは、いつも大川さんでした。どういう介護が良いのか知りたいたいと、当時県長寿社会政策課におられた本間照雄さんのご案内で、大衡村の七峰荘へ行つた時は驚きでしたね。田圃の中のさもない平屋のホームで、お年寄りも職員も輝いておられましたね。二〇〇〇年に介護保険制度をスタートさせる前には各自自治体がどれ程介護サービス準備できるか、県とタイアップして調査して廻った時、大川さんの温顔、柔らかい物腰がどれ程大きな影響力を持ったか、ついて行く私達はいつも思い知らされたものでした。
 これが人間の仕事だと思わされました。介護施設のサービス評価を始めた時も、施設に評価をさせて頂く交渉のトップに立つのは大川さんあなたでした。大変な仕事はいつも先頭を切つてご自分がなさいました。だから、私達みんながついて来られたのだと思つています。

昭雄さん、貴方は兄弟の一番上の兄として、私達兄弟を大きな抱擁力で支えてくれました。
 今、大きな大きな山が崩れたような気持ちです。
 でも、兄さんは仕事に生活に全力で打ち込まれやり遂げられたと思います。
 病気に対しても頑張りました。今はもう安心して、ゆっくりお休み下さい。
 弔吟で花を供えさせて戴きます。
 甲 吟
 奄然夢の如く 幽明を隔つ
 定めなき人生 限りなき情
 骨肉の親朋 皆 席に列し
 拈香三拜して 泣いて声を吞む
 亡き人を終の別れと弔えど 心は消えず ありしおも影
 亡き人を終の別れと弔えど 心は消えず ありしおも影
 二〇一六年三月六日 三浦信一

弔辞

り笑顔で後輩の皆さんを見守って下さいませ。いつの日かどこかの蓮の上で思い出話をして笑う事もありません。
 今は、早枝子奥様が最後を見守られた時のように安らかなお姿でゆっくりお休み下さいませ。
 心よりご冥福をお祈り申し上げます。
 二〇一六年三月六日
 相談役 鈴木啓子

「あなたの地域にはどんなカフェ・サロンが・・・」

～～～地域の居場所づくり～～～

地域の高齢者、認知症の人やその家族、介護の専門職などが集まり、気軽にお茶のみやおしゃべりをしたり歌ったりと、さまざまな交流の場があります。

日本の65歳以上の高齢者が2025年には約3700万人になり、高齢化の進展に伴い、認知症高齢者も700万人(約5人に1人)に達すると推測されています。

認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて、認知症の理解を深める普及、啓発、認知症の人の介護者への支援、認知症の人やその家族の負担軽減・心理的支援等を盛り込

んだ認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が策定され、認知症になっても、できる限り住み慣れた地域の良い環境で、自分らしく暮らし続けていくためのコミュニティづくりが求められています。

この新オレンジプランに対応した、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有しながら、お互いを理解し合う認知症カフェの設置を推進するなど、地域でさまざまな団体の主体による取組が広がっています。

認知症カフェ三つの類型

認知症カフェタイプ

本人の居場所・生きがいづくりの場

認知症の人やその家族と、地域の人、専門職が一緒につどい交流し、認知症や暮らしの工夫などの情報を得ることで、ともに認知症への理解を深めます。認知症の知識を持つ専門職が入り、相談に応じ運営しています。

家族交流会タイプ

家族支援の場(家族の負担軽減・心理的サポート)

主に、家族を中心とした集いです。お互いの思いや悩み、認知症の介護体験談や暮らしの工夫・本・パンフレットの情報を共有するなど、さまざまな交流をしています。

本人中心タイプ

本人同士が支え合う関係づくりの場

認知機能の障害に悩む本人を中心とした集いや相談窓口です。参加者同士で共感しあったり、意見交換をしています。

認知症カフェ以外にも、独居高齢者の孤立防止や高齢者の健康維持・増進の有効な手段の一つとして町内会、NPO、ボランティア、地域包括支援センター、地区社会福祉協議会等が担い手となって、おしゃべり・お茶のみ会・ランチなどを楽しむ「居場所・集いの場(サロン)」づくりに取り組んでいます。

宮城県では、認知症カフェ設置促進・普及啓発事業に於いて、NPO法人宮城県認知症

グループホーム協議会が事業の委託を受け、認知症モデルカフェを設置し運営しています。

仙台市では、仙台市市民協働事業提案制度によるサロン(地域のコミュニティ)づくりや地域包括支援センターに生活支援コーディネーターを配置し、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる地域包括ケアシステムの円滑な導入を目指しています。

*** オレンジカフェ ***
 『いっぷく』
 ～～グループホームなつぎ埜～～

前日の降った雪が残る市内を車で走って、若林区東部自動車道を過ぎると、まるで別世界！雪は何処にもありません。この方面は雪が降っても積る事はないそうです。

今泉町内会7区の110世帯の暮らす住宅地に位置しています。

「オレンジカフェいっぷく」は毎月第三木曜日の10:30～12:00まで、「グループホームなつぎ埜」2階地域交流室で開かれています。今回は18回目の開催です。職員の方の「お茶にしますか？コーヒーですか？」とおもてなしを受け、飲み物を持って席につきました。

蓬田隆子会長の挨拶、町内区長の挨拶で始まりました。

職員の指導で「折り紙で升作り」に挑戦です。一つ一つ教えの通り、折っていきました。厚手のカラー用紙の豆まき用の升が上手に出来上がりました。

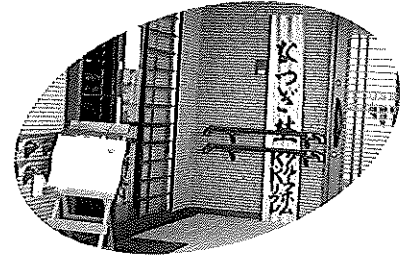
「ここどうするの？」「もっと力を入れて」などなど自然と誰かが、誰かの世話をしていました。

何処かで「出来た！！」の声に一齐に拍手が響きます。

次は軽体操です。

地域民生委員の二人が前に出て、「二輪草」の歌に合わせて踊ります。

それを見ながら、全員で手を振り体を動かし踊りました。



NHK取材風景

次にカラオケが始まりました。「りんごの唄」「川の流れのように」等リクエストがあり、マイクを持ち、懐かしいメロディーを歌いました。

ここでもみんな、笑顔、笑顔です。楽しい会話と、声を張り上げた唄で心がみたされ「また、来月ねー」とお開きになりました。本当にあっという間のひと時でした。

この日はグループホーム入居者、地域住民、家族、区長、民生委員、地域包括支援センター長の20数名参加でした。

次回は六郷地域包括支援センター長の「脳トレ体操」を予定しています。

町内区長は毎回カラオケセットを持参し、地域住民の参加者の送迎をされているそうです。

地域の協力があって、地域高齢者の誰でもが集い、一緒に楽しい時間を過ごし、互いに励まし、助け合って「絆」が生まれる場でした。



カラオケ風景



囲碁づくり

軽体操風景

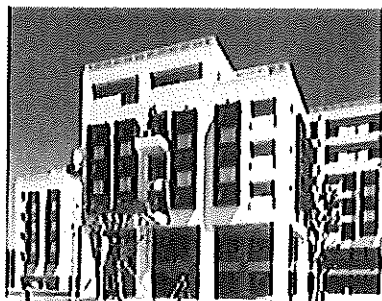
賛助団体会員事業所紹介

当会の活動に日頃よりご支援、ご協力をいただいております賛助団体会員様の事業所のご紹介をシリーズでお送りいたしております。(あいうえお順)

本内容は、各特別養護老人ホーム様から項目にそった概要をご提示いただき、その原稿をそのまま紹介させていただきます。

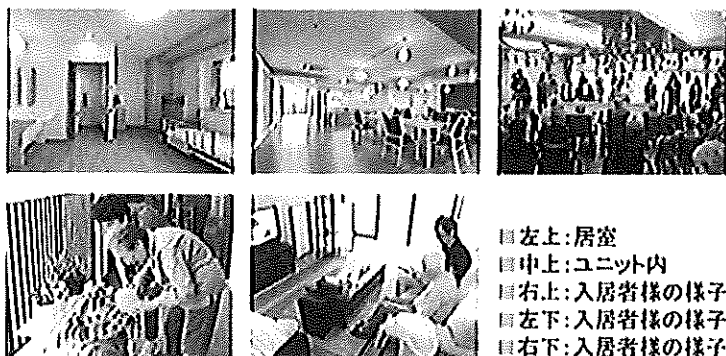
なお、詳しくは次のURL:Welcome,Donto! <http://www.donto.co.jp/> をご覧願います。

特別養護老人ホーム 成仁杜の里仙台



- 経営主体 社会福祉法人杜の里福祉会
- 所在地 宮城県仙台市若林区荒井字広瀬東43-1
- 電話・FAX TEL 022-289-7111 FAX 022-289-9333
- 開設年月 平成11年4月1日
- 居室改修 平成27年6月6日移転
- E-mail s.suzuki@morinosatofukushikai.com
- URL <http://www.morinosatofukushikai.com>

施設紹介写真



- 左上:居室
- 中上:ユニット内
- 右上:入居者様の様子
- 左下:入居者様の様子
- 右下:入居者様の様子



入居定員

定員別	個室	2人	3人	4人	その他	居室合計	入居総定員
部屋数	150室	0室	0室	0室	0室	150室	150名

職員体制

■ 1: 2

利用経費概要

居室使用料	820~1,970 円(月額、介護保険負担限度額・認定証提示により異なる)
食事費	300~1,380 円(月額、介護保険負担限度額・認定証提示により異なる)
光熱水費	
その他	927 円(月額、要介護度3の1割負担の方の場合、介護福祉施設サービス費・その他の加算)
月額合計	61410~128,310 円

入居待機状況

428 名(平成27年11月1日現在)

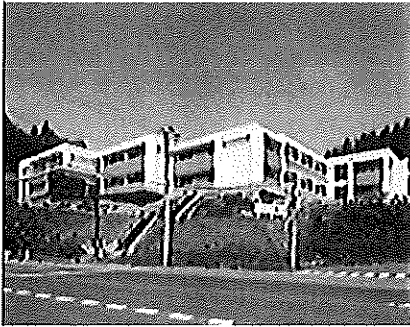
施設の特徴

東日本大震災で被災したため、平成27年6月6日に若林区三本塚から若林区荒井の地域へ移転をしております。施設のつくりは和風の建築で、全室個室のユニット型の施設でゆったりとした空間を大切にされた施設となっております。浴室はユニットに1カ所の割合で配置しております。このゆったりとした環境がそこで生活していらっしゃるお年寄りの表情を穏やかなものとし、笑顔が絶えない施設であることが私たちの誇りです。

また、介護を行っていく上で私たちは入居の段階で利用者ひとりひとりの生活歴をご本人またはご家族より詳細に取得し、施設での生活を送っていただく際に、違和感なく馴染んでいただけるよう配慮し、かつその後のケアへの展開を図るなど、全人的ケアを基本としています。また、コンピュータに食事量・排泄量・睡眠・生活歴などを入力し、その記録を基にしてその後のケアの方向付けを行う、科学的根拠に基づいたパーソナルケアを全利用者様に対して行っております。

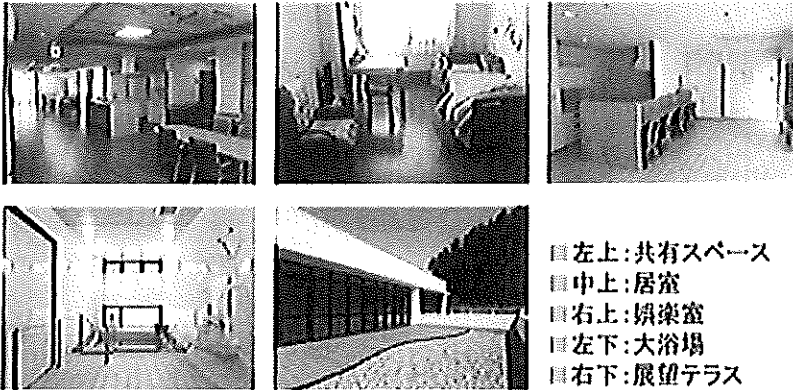
特別養護老人ホーム

恵心寮

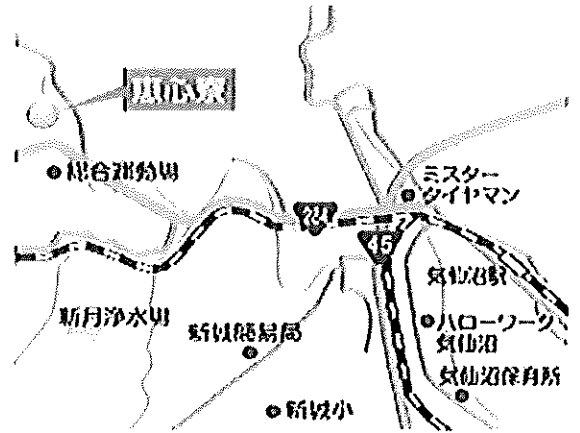


- 経営主体 社会福祉法人 なかつうみ会
- 所在地 宮城県気仙沼市下八瀬426番地8
- 電話・FAX TEL 0226-25-8727 FAX 0226-25-8726
- 開設年月 平成16年4月15日
東日本大震災にて全壊の為、平成26年7月1日新築移転にて事業再開
- 居室改修
- E-mail nakatsuumi@shore.ocn.ne.jp
- URL

施設紹介写真



- 左上: 共有スペース
- 中上: 居室
- 右上: 娯楽室
- 左下: 大浴場
- 右下: 展望テラス



入居定員

定員別	個室	2人	3人	4人	その他	居室合計	入居総定員
部屋数	70室	0室	0室	0室	0室	70室	70名

職員体制

■ 1 : 1.85

※平成28年5月より長期50名、短期10名 計60名で稼働予定

利用経費概要

居室使用料	1,970 円
食事費	1,380 円
光熱水費	居室使用料に含む
その他	
月額合計	1ヶ月(30日)第4段階の場合 要介護 1:120,720 円 要介護 2:122,700 円 要介護 3:124,830 円 要介護 4:126,810 円 要介護 5:128,790 円

入居待機状況

196名(平成28年3月1日現在)

施設の特徴

当施設は東日本大震災で大きな被害を受け事業を休止していましたが、新たな施設を再建し、平成26年7月、事業を再開しました。

場所は気仙沼市西部の国道284号線沿いにある「にいつきパーキング」に隣接し、近くにはショッピングセンターがあり、利便性に富んでいます。

居室は全室個室のユニット型で、入居者個々のプライバシーを守り、快適に生活できるよう支援しています。10人ごとのユニットでは入居者と職員の関係性を大切にし、24時間シートを活用しながら一人ひとりに寄り添うケアを実践しています。

娯楽室では、喫茶店のようにお茶やコーヒーを楽しんだり、食事会や趣味活動をおこなっています。2階展望テラスからは自然豊かな気仙沼地域の景色を一望でき、時にはカモシカや野うさぎ等の動物が訪れ、四季を目と肌で感じることができます。その他施設内には「売店」、遠方の家族が宿泊できる「宿泊室」、木やパソコンがある「図書室」、地域の方々とふれあいの場である「地域交流室」があります。

恵心寮では基本理念【～心の通う家を作ります～①ひとり一人の心を大切にします。②家族の心を大切にします。③地域の心を大切にします。】のとおり、3つの心が通い合える施設作りを目指しています。行事としては、夏まつり、気仙沼みなとまつり見物、敬老会、芋煮会、クリスマス会その他、入居者の要望に合わせ、ドライブ、クッキング、にいつきパーキングで開催される軽トラ市に参加し、地域との交流を図っています。

第5回理事会模様

★2016年1月14日(水)、石巻市総合福祉会館みなと荘会議室において、理事総数19名中12名出席のもと初めての移動理事会が開催された。

☆議題は次のとおり

- 1、会員の近況について
- 2、常任三役会議の報告について
- 3、介護サービス情報の公表の調査活動について
- 4、地域密着型サービスの外部評価活動について
- 5、福祉サービス第三者評価の調査活動について
- 6、諸会議、研修会などの参加状況と今後の計画について
- 7、残高試算表について
- 8、市民後見人制度について
- 9、よろず相談会の開催状況報告
- 10、地域包括ケアシステムの具体化(支援)について
- 11、広報、組織、総務関係の活動について
- 12、第6回理事会の開催について
平成28年3月15日(木)13:00から
仙台市生涯学習支援センター5階会議室にて開催
- 13、その他
- 14、石巻市の地域包括ケアシステム推進実施計画について

第6回理事会模様

★2016年3月15日(火)、仙台市生涯学習支援センターにおいて、理事総数19名中13名出席のもと第6回理事会が開催された。

☆議題は次のとおり

- 1、代表理事逝去など会員の近況について
- 2、第15回定期総会開催準備について
- 3、常任三役会議の報告について
- 4、介護サービス情報の公表の調査活動について
- 5、地域密着型サービスの外部評価活動について
- 6、福祉サービス第三者評価の調査活動について
- 7、諸会議、研修会などの参加状況と今後の計画について
- 8、残高試算表に(2月末)について
- 9、広報、組織、総務関係の活動について
- 10、第7回理事会の開催について
平成28年4月19日(火)13:00から
仙台お客様サービスプラザ会議室にて開催
(東日本建物仙台駅前ビル2F)
- 11、その他

※総会、理事会の議事の詳細については事務局備付けの議事録を閲覧できます

フォローアップ研修

❖第3回 地域密着型サービス外部評価研修会

平成28年2月9日仙台市生涯学習支援センターにおいて、グループホーム縄文の風 計画作成担当者伊藤あおい氏を講師に迎え「グループホームにおけるケアプランの作成について～その人らしいケアプランとは～」の講話を中心にしたフォローアップ研修会が開催されました。

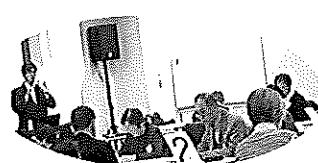


❖宮城県福祉サービス第三者評価調査者継続研修会

平成28年2月26・27日TKPガーデンシティ仙台勾当台において、研修会が開催され、当会から10名の調査員が参加・受講しました。

研修内容は次のとおり

- ・第三者評価のプロセスと留意点、
- ・評価の事前分析、事前準備の指導と留意点、
- ・訪問調査時の留意事項、
- ・合議、評価結果の取りまとめ方法



❖第2回 情報の公表フォローアップ研修会

平成28年3月31日仙台市生涯学習支援センターにおいて、フォローアップ研修会が開催されました。

研修内容は次のとおり

- ・調査員報告書について
- ・グループ討議
調査を実施して感じられたこと、経験されたこと
検討課題、調査員間のコミュニケーション、事務局で検討すべき課題 など

2015年度 事業活動状況

◆福祉サービス第三者評価調査

・ウインズの森 離宮 8月調査実施。

*公表結果は一人市民委員会宮城ホームページ

(<http://www.ichimannin.com>)をご覧ください。

◆介護サービス情報の公表訪問調査

介護サービス情報の公表訪問調査

9～3月実施 合計: 413施設

介護サービス情報訪問調査を9月から開始しました。

・介護老人福祉施設	: 19	施設
・訪問介護	: 61	施設
・訪問入浴介護	: 4	施設
・福祉用具貸与	: 23	施設
・居宅介護支援	: 70	施設
・介護療養型医療施設	: 1	施設
・特定施設入居者	: 8	施設
・通所介護	: 127	施設
・訪問看護	: 13	施設
・介護老人保健施設	: 10	施設
・通所リハビリテーション	: 17	施設
・訪問リハビリテーション	: 2	施設
・認知症対応型共同生活介護	: 45	施設
・小規模多機能型居宅介護	: 12	施設
・複合型サービス	: 1	施設

*公表結果は、<http://www.kaigokensaku.jp/>をご覧ください。

◆地域密着型サービス評価調査

・認知症対応型共同生活介護(グループホーム): 115施設

地域密着型サービス外部評価を7月から開始しました。

*自己評価及び外部評価結果は、ワムネット <http://www.wam.go.jp> をご覧ください。

第15回定期総会のお知らせ

と き 平成28年5月30日(月) 13:00～
と ころ 仙台市市民活動サポートセンター 6階
セミナーホール
仙台市青葉区一番町四丁目1-3
Tel:022-212-3010

お問い合わせ・連絡は一人市民委員会宮城県民の会事務局へ Tel:022-293-8158

※総会終了後、懇親会と併せて大川代表理事の偲ぶ会を行います。

なお、詳細については総会案内にて別途お知らせ致します。

◆よろず相談会のご案内

身近な困りごと、悩みごとなどの相談会を当会顧問の武田貴志弁護士、安田廣治司法書士を相談役に、両先生から法律、成年後見関係の分野に限定せず、よろず相談会として、会員の方やそのご家族がお持ちの生活全般、法律相談などに関する「なんでも」相談していただく会です。(無料です)

時間と場所は次のとおりです。

*時 間:午後1時～3時(毎回)

お一人様1回30分程度を予定

*場 所:テルウエル相談室(一人市民委員会宮城事務所隣り)

*受付電話:022-293-8158

FAX:022-293-8230

申し込み締切日は開催日の7日前としますがそれ以降でも有りましたら、連絡願います。

お気軽に相談願います。

☆開催日程(28年4月～28年7月)

- ・4月20日(水) 相談役 武田貴志弁護士
- ・5月18日(水) 相談役 安田廣治司法書士
- ・6月21日(火) 相談役 武田貴志弁護士
- ・7月14日(木) 相談役 安田廣治司法書士

◆成年後見センターのご案内

「一人市民委員会宮城成年後見センターみやぎ」を立ち上げました。

・最近物忘れが多く通帳やお金の管理ができなくなってきた

・一人暮らしで日常生活や身の管理など不安

・介護サービスを受けたり病院を受診するのに必要な契約や手続きが一人ではできず不安

・離れて暮らしている親の判断能力が低下してきている

このようなことで、成年後見制度をご利用されたい場合は当センターへお気軽に相談下さい。

【受付時間】

・月～金(土・日・祝日を除く) 9:00～17:00

【受付電話】

・電話:022-293-8158



絆

理事 高野 剛

夫婦で東郡山コミセンの多目的ホールでダンスのレッスン中、大震災に遭遇し、若林区荒浜の海岸から八百mほどの自宅へと車を飛ばす。しかし周辺の様子から自宅より4kmの七郷市民センター駐車場まで二日間車中泊した。

この市民センターに避難して来た深沼の人が「荒浜は津波で何もかもすべて流された」と事もなげに言うのを耳にし、我々二人は頭が真っ白になった。

この日から私のボランティア拠点の若林中央市民センターに九日間、その後南小泉小学校体育館で十二日間、計三週間の避難所生活を送った。

やつと連絡がついた首都圏在住の子供たちから「支援するから出来るだけ早く住まいを探したら」との提言で、急速不動産屋と交渉し、(後にみなし仮設と認定された)マンションを決め、契約した。

大急ぎで生活用具を買いそろえ、四月三日引越し二十三日ぶりに自分たちの生活を取り戻した。

この一帯は区役所、市民センター、ボランティア拠点、仙台駅に近く、交通の

便が良く生活はもちろん活動するにも絶好の場所だった。

みなし仮設(マンション)で生活する事四年半を経た二〇一五年十月、津波家屋流出者集団移転地「荒井西地区」に念願のマイホームが完成し引越した。

年齢的に時間的、資金的にも容易じゃないと思っていた夢が実現したのだ。

大震災による津波で全てを失ったが、かわりに得たものは計り知れない、それは人と人との絆である。

おそらく震災を経験しなければ絆に気づかずに人生を終えていたと思う。

身内はもちろん、連日避難所に駆けつけてくれたボランティア仲間、学生時代の友、疎遠になってた友人、また遠方の友人・知己からの電話による励まし・支援物資で生きる勇気を戴いた。

今まで気付かなかった沢山の人が私たち夫婦を見守っていてくれていたのだと感謝感激した。今後も健康寿命を維持しさらに多くの人と固い絆を育て第三の(？)人生を謳歌したい。

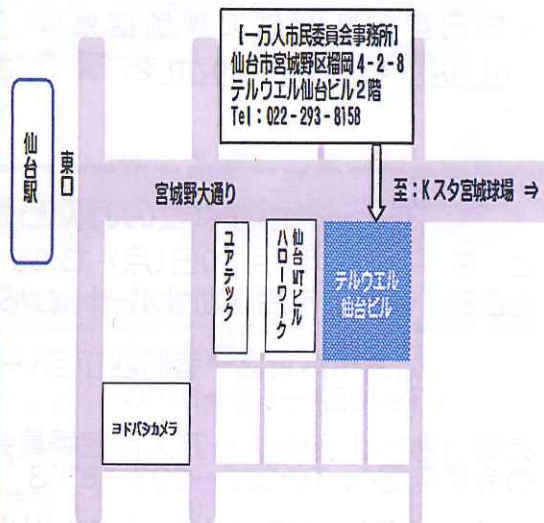
【編集後記】

大川代表が3月3日に逝去して、心にぼっかりと穴が空いた気持ちです。これまでいろいろあたたかなご指導をいただきまして、本当にありがとうございました。どうぞ安らかに眠りください。合掌…。

東日本大震災から5年が経過して、復興に力を注いでいる方がいる反面、心の傷が癒えない方もまだまだおられるかと思えます。あの日を忘れずに心に寄り添い、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

さて、河北新報のデスク日誌欄に、学生のキャリアサポート担当で就職支援もしている教授に、「どうしたら文章が上手に書けますかね」と、記者が水を向けられ文章談義に花を咲かせたとあった。「色々なことを経験し、論理的に考えること。そうして書ける題材を増やすことが、作文がうまくなる一歩だと思う」と伝えた。発想力や思考力、人間性もまた作文で試されるというような内容だった。就職試験で志望動機をちゃんと書けない学生が多いのだそうです。「文章をうまく書く」は、常々私の願望でもあります。

(栗原 節子)



特定非営利活動法人
介護の社会化を進める
市民委員会 一万入市民委員会宮城県民の会
〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウエル仙台ビル2階
Tel:022-293-8158 Fax:022-293-8230
ホームページ:http://www.ichimannin.com
Email:ichimannin@alpha.ocn.ne.jp